

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (  可  否 )

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 流し木	(ふりがな) ながしぎ	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	木流し		
伝承地域	三島町 大石田		
由来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 貞享2年(1685)の風俗帳には、只見川・伊南川・大川での木流しの記載がある。		
内容	(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) 流し木は、秋口に山入りしての作業となる。 冬に伐っておいた薪は乾燥しており、これを川に運び流す(木流し)。この時、他人との薪を区別するために木に印を付ける。印を付けない木は流してはいけなかった。だいたいの流す日割りを個人毎に決めていた。 木を揚げる場所は決まっており、そこで引き上げた薪を仲買人に売っていた。川には障害物が沢山ある。これを鳶口で取り除くことを尻払い(しっぽらい)という。		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	三島町教育委員会	電話	0241-48-5599

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)	_____	※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵願います。(貼り付けずに、名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢 生年月日	男 ・ 女 _____ 歳 明治・大正・昭和・平成 _____ 年 月 日 生	
	住所・電話	〒 _____ 電話 _____	
	職 業	_____	
団体	団体名 (ふりがな)	_____	
	代表者氏名 (ふりがな)	_____	
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 _____ 年 月 日	
	問い合わせ先	_____	電話 _____

【フリーフォーマット】

キーワード

<木流し>



(写真提供：奥会津書房)

木流しには、村内の薪として使用するために運搬する方法と、只見川や大川などの雪どけ水を利用して、建築材などの木材を筏（いかだ）に組んで新潟まで流す方法がある。筏流しの職人たちは、新潟方面から来たという。